

Title	業績評価システムとしてのバランスト・スコアカードに関する考察
Sub Title	
Author	菅崎, 登志龍(Sugasaki, Toshikimi) 柴田, 典男(Shibata, Norio)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2059号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2059

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	柴田 研究会	学籍番号	80430575	氏名	菅崎 登志龍
(論文題名)					
業績評価システムとしてのバランスト・スコアカードに関する考察					
(内容の要旨)					
<p>本研究は、日本におけるバランスト・スコアカードの導入実態から業績評価のあり方を論述したものである。日経 500 銘柄を中心に行われたある調査によれば、現在の組織業績の評価の仕組みは十分ではないと答えた企業が単体で 91%、連結でも 91%を占めていた。そうしたなかで、業績評価が十分ではないとした企業のうち何社かは「バランスト・スコアカードに興味を持つ」、「バランスト・スコアカードによる改革に着手中である」と答えている。</p> <p>バランスト・スコアカードでは、財務業績（財務の視点）を究極の目的としながらも、そこに至るまでの多面的な非財務業績（顧客の視点、社内ビジネス・プロセスの視点、学習と成長の視点）をも広く「業績」と定義する。その業績度合を表わす指標を各組織単位で徹底的に定量化し、組織の隅々まで効果的にコミュニケーションすることにより、中長期にわたる安定的な財務業績の実現が期待できる。また従業員からみれば、最終的な財務業績の達成との関わりのなかで自己の業務目標を認識でき、価値向上へ向けた効果的なアクションが見出せるのである。</p> <p>研究テーマに取り組むに際しては事例研究を実施した。最初に、業績評価全般について業種の異なる企業にインタビューを実施し、バランスト・スコアカード導入企業との比較対象とした。そのうえで、バランスト・スコアカードを導入する企業において実際にバランスト・スコアカードの導入や運用に携わる人へのインタビューを実施した。事例研究を整理し、バランスト・スコアカードの導入が向く企業、共通する導入成功要因を得た。</p> <p>加えて、バランスト・スコアカードは EVATM や活動基準原価計算（ABC）とも相互補完的な一面を持つ。それらの統合の有効性についても検証を進めた。</p> <p>企業が目指す方向に対して整合的な諸制度が存在する前提であれば、業績評価はバランスト・スコアカードに帰結すると言える。</p>					